

未踏を踏む

東京大学運動会ワンダーフォーゲル部
2024年度新歓パンフレット





東京大学運動会ワンダーフォーゲル部主将

市野響希

新入生の皆さん、 ご入学おめでとうございます！

運動会ワンダーフォーゲル部の主将を務める市野です。主将挨拶という場をお借りして、当部の活動について簡単にご紹介させていただきます。

そもそもワンダーフォーゲルという名に馴染みのない方も多いかと思いますが、端的に言えば一般の山岳部です。具体的には、通常の夏山登山に加え、藪を掻き分け道なき道を進む藪山行、水流を横目に滝を遡り源頭に至る沢登り、聳え立つ岩壁に己の肉体のみで立ち向かうロッククライミング、過酷な雪氷の銀世界にトレース・シュプールを刻む雪山登山やバックカントリースキーと、その活動は多岐に渡ります。この豊富な活動こそ、当部の最大の魅力であり、皆さんが入部した暁には各自の趣味嗜好に基づき山行に参加して頂きます。クライミングや沢登りなど登攀に励む者、冬には毎週山スキーに行く者、夏山での長期縦走やそこから個人でトレイルランニングに挑む者など様々です。

同じ興味を持つ仲間と共に山へ向かう。単独では辿り着けない場所に隊として仲間と力を合わせ到達する喜びは何物にも代え難いものです。同じ釜の飯を食らい、重荷を分かち、励ましあった仲間とは一生ものの友情を築くことができるでしょう。一生に一度の大学生活、サークルなどの幅広い交友関係も良いですが、せっかくならば部活動という濃いコミュニティを楽しんでみませんか？

ところで、体育会という勉強面について、特に東大生であれば進振へ不安を覚える方も多いかもしれません。事実、僕もその1人でした。しかし入部すれば分かる通り、全くの心配ご無用です。部員紹介の通りですが、先輩方も同輩も後輩も勉学に対しても優秀な人が多く、僕自身いつも彼らの能力の高さと勤勉さに驚かされてばかりです。登山自体が山に対する総合的な知識や思考力などを要し、一般のスポーツ以上に頭も必要とするからですかね。

例えば我々の代では文系は法学部から後期教養学部まで幅広く、理系も情報系三学科から数学科、化学や航空宇宙など幅広く全員希望の学科に進学しています。もちろん、勉学と部活との両立は大変ですが、我々自身も受けてきたように勉強やバイトとの両立も皆で支え合えるような体制が整っています。(逆に言えば、飲んで騒いで馬鹿騒ぎというノリを楽しみたい人には少し合わないかもしれないですね、笑)

最後に未経験者の方に対してですが、こちらも心配ご無用です。僕自身も登山は未経験でしたし、前主将も同じく未経験者でした。それでも、当部に受け継がれてきた確固たる指導体制や審議制度、過去数十年の山行データなど膨大な資料のおかげで効率的に技術も知識も身につけることができ、現在までに至っています。安全対策にも万全の備えをしておりますのでご安心ください。

以上、冗長になりましたが、少しでも当部の活動に興味を持ってくださった方は是非新歓へお越しください。部員一同お待ちしております。



東京大学運動会ワンダーフォーゲル部新歓代表

小谷新太

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。東京大学運動会ワンダーフォーゲル部の新歓代表を務めています、小谷新太と申します。こんなところにある文章を読む皆さんは、すでに頭のどこかに「ワンゲル」という言葉が潜んでいるでしょう。そんな皆さんをもっとワンゲルに染めるため、僕からはこの部活の魅力について話します。(活動内容はこの冊子に綺麗な写真と一緒に載せているので、ぜひ見てください!!)

僕が思うワンゲルの魅力はズバリ「非日常」です。例えば山登り前日は麓に泊まるのですが、それが公園だったり駅前だったりとにかく楽しいのです!!僕は砂浜に泊まったことがあるのですが、波音と星空と海の光を感じながら眠ったあの夜は人生最高のひとときでした。

それ以外にも300mほどある雲が目線の高さで通り過ぎる時、人がいないからって山頂でついお昼寝した時、もの凄くかわいいネズミのようなものを見た時、雨の中静かな山小屋でべっこうあめを作る時、尋常じゃないホラーなものを見つけた時。ワンゲルには他の部活・サークルとは一線を画した魅力が詰まっています!

山に登る理由は人それぞれです。僕の話聞いて少しでも興味を持った方は十分「ワンゲル適性」があります。

部員一同、
皆さんのご入部を心待ちにしています!

～おいでよ♪～

新歓情報

TWVでは新歓イベントとして新歓ハイク、クライミング体験会、新人合宿を企画しています。参加希望者はTWV新歓ライングループ(オープンチャット)に参加した上、フォームにて参加申込して下さい。フォームのリンクは各種SNSでも確認できます。新歓情報については、ラインオープンチャット内で詳細をお知らせしています。チャット内で質問対応等も行っていますので、是非追加してください。その他右記のSNSでもワンゲルについてや新刊情報、質問対応等行っているのを見てみて下さい。メール対応も行っております!



 twv.shinkan@gmail.com

クライミング体験会

渋谷のジム(ノボロック)で行われる、ボルダリング体験会です。最近人気のボルダリングを、TWV部員のアドバイスの元、体験できます!4限後駒場に集合します。

持ち物:運動しやすい服装

参加費:無料

4/10 WED 17:00-19:00
4/12 FRI 17:00-19:00
4/16 TUE 17:00-19:00

新歓ハイク

都内近辺の低山に登る日帰りハイキングです。食料・飲みものも支給します。例年、登山初めての方も含め、手軽に楽しめるイベントとなっています。ぜひ気軽に参加して下さい!

持ち物:運動しやすい服装、運動靴、リュックサック(日常使いで可)、交通費

4/6 SAT 陣馬山 標高855m 奥多摩
4/13 SAT 金時山 with スキー山岳部 標高1,213m 箱根

新人合宿

TWVの活動の基本である、1泊2日山行を体験してもらいます。実際の登山や山中でのテント泊、山料理など、TWV部員の日常を体験してもらいます。例年、登山初心者からも好評を頂いております。前日の授業終わりに山の近くまで移動するため、計3日間の予定です。

持ち物:運動しやすい服装、交通費(登山道具は全て部から貸し出します)

4/20 SAT 雲取山 標高2,017m 奥秩父
-21 SUN 東京都最高峰
4/27 SAT 大菩薩嶺 標高2,057m 奥秩父
-28 SUN 歴史ある日本百名山
5/4 SAT 三つ峠 標高1,785m 御坂山塊
-5 SUN 絶景を望める開運の山

4 新入生が最初に経験する山行です。新入生は新人合宿のどれか1つに参加して頂きます。体験会の意味もあるので、難易度は低いです。

5 新入生の体力向上と、初歩的な技術の習得が目的です。新人合宿よりも難易度は上がります。

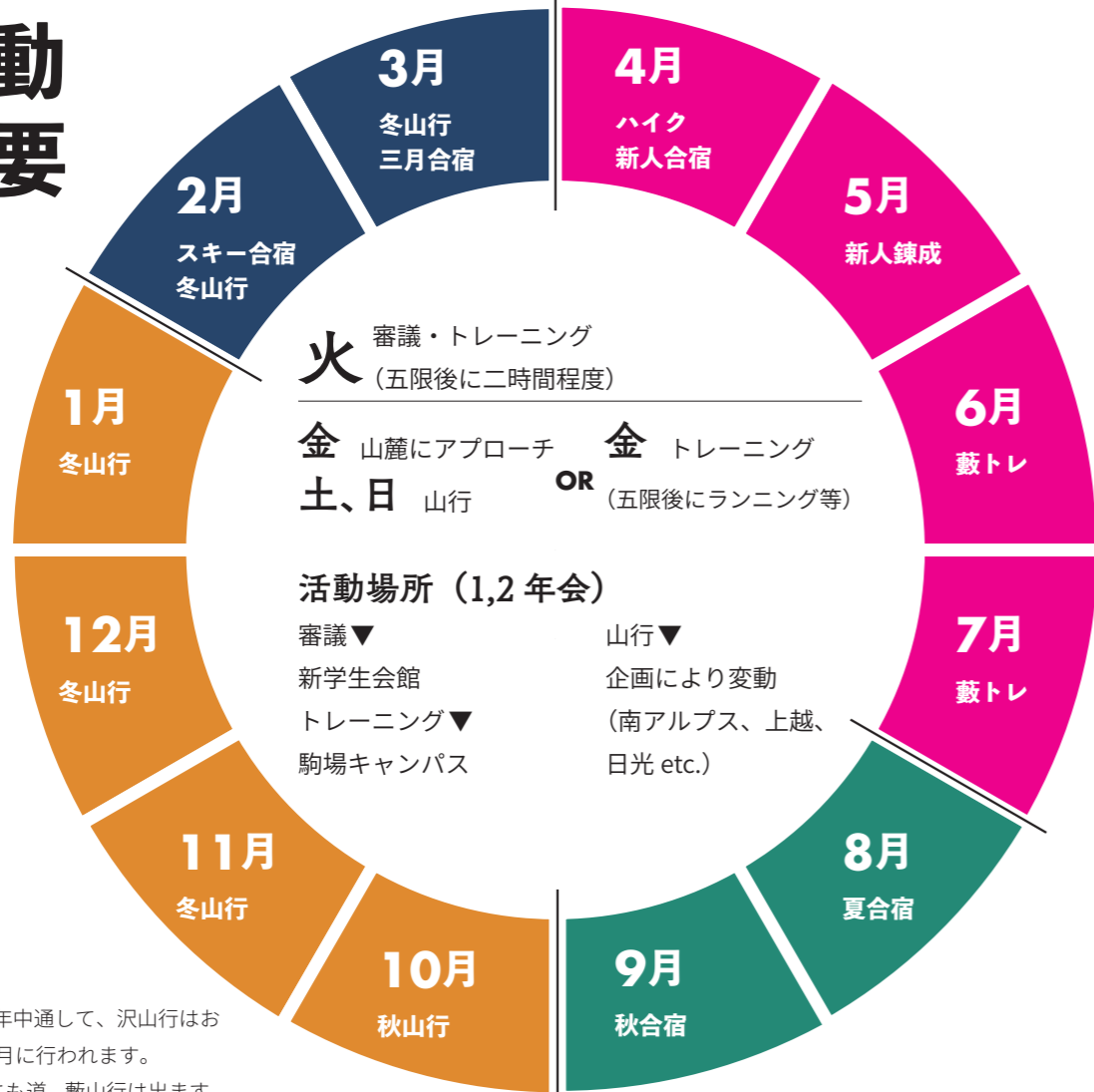
6,7 TWV 伝統の藪山行が始まります。5回ほど出る企画のうち2つ以上に参加して頂きます。

8 3つの行先（藪企画1つ、道企画2つ）のうち1つを選び、12日ほど山で過ごします。普段い

けない遠方の山にも行けます。TWVで過ごす中で、最も期間が長い山行となります。

9 長い休みを過ごし、難易度が高く、日数も長い山行に数回行きます。藪や道山行がメインです。クライミング合宿や沢合宿も出ます。

活動概要



*岩山行は年中通して、沢山行はおもに7~9月に行われます。
*11~3月にも道、藪山行は出ます。

10 紅葉などを楽しめる山行が出ます。夏休み中とは違った景観が見られます。基本的に緩めの山行が出ます。

11 雪山シリーズが始まります。(任意参加) 上級生からシーズン通して技術指導を受けられるので安全に行けます。上級生は初冬登山に行きます。

12 冬山に行くと決めた人たちはほぼ毎週雪山に行きます。一年の中でかなり忙しい時期となります。

年 末年始上級生は年越し登山に行きます。

1 前半は12月と同様雪山に行きますが、後半はテストがあるので山行に行く回数が少なくなります。

2 希望する部員(冬山に行かない人たちも含む)でスキー合宿に行きます。冬山参加者は訓練をし、非参加者はスキーを楽しみます。この時期に冬山参加者は山スキーを始めます。

3 冬山の集大成である3月合宿があります。また、次年度の新歓が始まります。



ワンゲル小屋

新潟県南魚沼市
日本百名山巻機山の麓

TWV 小屋は、かつての東大建築学科生が設計建築し、OBOG 会や現役世代の定期的な環境整備(小屋ワーク)により立派な佇まいが保全されています。小屋では、毎夏に現役世代と OBOG 会が一堂に会する小屋祭が行われ、先述した小屋ワークも年に数回企画されています。環境整備と字面は強いですが、実際は小屋でのんびり本を読んだり、ギターを弾いたり思い思いの時間を過ごします。夜になると皆でご飯を作り、世代間で山の話や現旧の TWV の話などで盛り上がります。早朝に目を覚ますと、巻機山や割引岳(わりめきだけ)のモルゲンロートが眼前に。じーんときます。OBOG の方々にもご友人と共に、足繁く小屋に通う方がおり、TWV 小屋は世代を問わず、部員にとっての心の故郷のような場所となっています。



道

「道」は1年を通して企画が出されます。通常は、金曜夜に駒場や本郷の部室に集合し、ザックを背負って車や電車で登山口付近にアプローチ、翌朝に出発して山歩きを楽しみ、山中でテント泊をします。整備された道を歩き、時には岩場や鎖場を通りスリルも味わいつつ、一丸となり山を進んでいく登山の王道です。地図読みやサイト(食事作り)など、TWV生活の基礎を身につけていきましょう。夏合宿では大縦走を経験でき、山にどっぷりと浸かることができます。ほの香る土の匂い、樹林帯に射す木漏れ日、聞こえるのは沢の静かなせせらぎと小鳥の心地よい囀り、ザックの軋む音と熊鈴の共鳴…都会の無機質な喧騒から離れ、週末を上質な空間と仲間と共に過ごしませんか？

「藪」は地図とコンパスを駆使して、道なき道を進むという山行形態です。隊は3つのグループ(トップ:先頭で道を見極める、中継:トップの情報を本隊に伝える、本隊:1年會等を率いる)に分かれて行動します。隊の陣形もさまざまあり、みんなで協力して一人では登れないような急登を登ることもあります。通常の道山行よりも体力を要し、進める距離も短いですが、TWVでしかたどり着けないような場所にも数多く行き、雲海や頂上に広がる草原等、非常にきれいな景色を見ることができます。新入生は5月ごろに行われる藪トレ(4,5回行われる)に数回参加し、そこで気に入れば夏合宿で長い期間藪に行くことになります。秋にも藪合宿は企画され、夏とは異なる藪を楽しむことができます。

藪



「沢」はその名の通り、水の流れるところを登る山行形態です。その山場は、写真のような滝を登るのでしょうか。滝の登攀には、どのルートで登るのかなどのクライミング的な難しさに加え、水が上から流れてくるため滑りやすいという自然条件的な難しさがあります。皆さんが思っている通り、もちろん危険ですのでTWVでは安全を担保する様々なシステムが存在しています。危険ではありますが、自分の体をコントロールし、そびえ立つ滝を登攀し終えた時の達成感は、ジェットコースターやバンジージャンプをし終えた時のそれとは比べ物になりません。大きな自然とちっぽけな個として対峙する感覚は、沢ならではのものだと思います。体験会もありますので奮ってご参加ください！

近年新たに始めた山行形態です。ロープでクライマーの安全を確保しながら登る「ロープクライミング」に主に取り組んでいます。現在の岩パート参加者に経験者はほとんどおらず、初心者にも基本から丁寧にロープワークを教える体制が整っているため、未経験の方でも安心して参加できます。ロープワークは最初複雑に感じてもかまいませんが、練習していくうちに徐々に慣れていきます。普段はクライミングジムに通ったり筋トレしたりして、登攀力を鍛えます。どのようなルートを取りどのように手や足を動かしたら登れるかを考えながら登るのが、岩の醍醐味です。岩を登り切った後の達成感は格別です。ぜひ僕らと一緒に岩を登りませんか？

女子会より

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
2年会の西村と申します。このページでは、twへの入部を考えている方に女子目線での紹介ができればと思います。

ワンダーフォーゲル部では、参加すべきとされているいくつかの山行を除き、基本的に自分の興味関心に従って自分のペースで参加する活動を選ぶことができます。体力や経験不足、また山に登る危険性から不安を感じている方もいらつしやるかもしれません。ワンダーフォーゲル部では伝統の中で安全に活動するための制度が整えられています。下級生のうちは上級生の指導の下で活動に参加し、将来的には自らも隊を率いて登ることができるようになるまで成長することができます。また、日々のトレーニングや山行への参加を重ねることで体力の課題も乗り越えることができるようになります。登山経験者として入部した私も体力不足を感じることは多くありましたが、1年間の活動を通して徐々に山を楽しむ余裕ができました。諸先輩方や同輩に支えられつつ活動を楽しみ、肉体的にも精神的にも成長できたと思います。

日常を離れて自然を味わえることや、山に登ることで得られる達成感、仲間と助け合いながら全員で山頂を目指す経験は他では得がたいものです。代々女子部員が少なかったこともあり、女子部員に対する配慮はまだまだ改善すべき点もあるかと思っています。しかし部は、性別に関わらず快適に、安全に登山が行えるよう、変化しつつあります。私たちは性別や経験を問わず新入生を歓迎していますし、最大限のサポートができるよう力を尽くしたいと思います。皆さんと一緒に活動ができることを楽しみにしています。

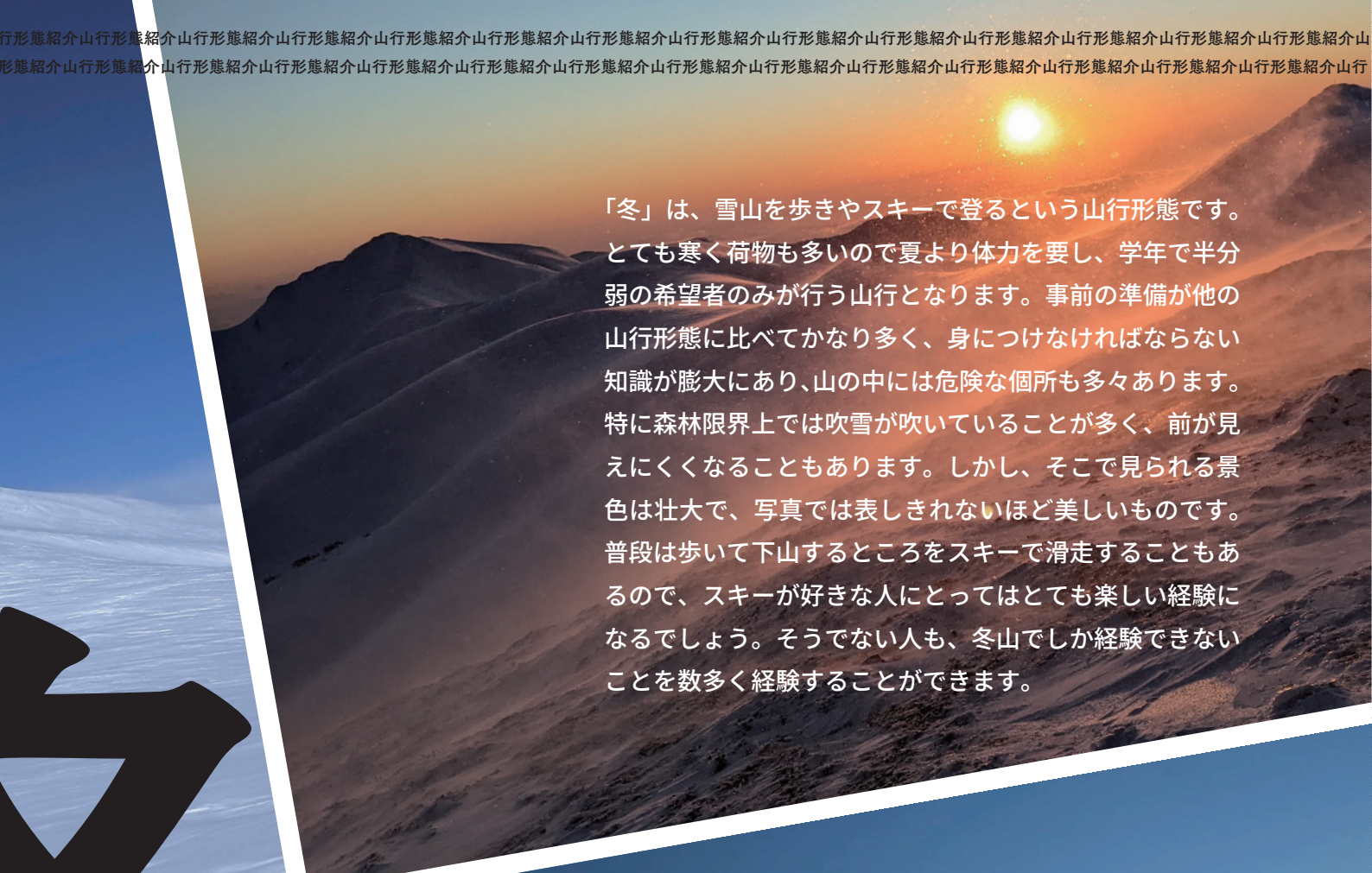
未経験者の方へ

さんの中には登山なんて本格的にしたことない、運動部に入るのも初めてだという方もいるかもしれません。ここではそういった未経験者の皆さんに向けての話をしたいと思います。

登山には様々な能力が必要です。10キロ以上のもを背負って何日も山に登るための体力はもちろん、地図を読む能力や山で起こりうる様々な事態へ対処する能力などなど。しかし、未経験者を含めた新入生の皆さんがまずすべきことは、山行にたくさん参加することのみです。山行に参加することで自然と体力はつきましますし、先輩方から話を聞いたり、直接先輩方のしていることを見たりして登山に対する理解を深めることができます。こう聞くと、山行がとても堅苦しいもののように聞こえるかもしれませんが、新入生のうちの山行は新鮮で面白い体験となるでしょう。twのシステムとして、山行は毎週開かれ、行きたい！と思った山行に個人が自由に参加するので、山行ごとにメンバーが変わります。「この先輩は前いたけど、あの先輩は初めてだ。どんな人だろう」というワクワク感。初対面の人といきなり一泊二日過ごすというなかなか奇妙な体験ですが、山行の醍醐味の1つです。安心していただきたいのですが、先輩は皆さん個性的でフレンドリーですので退屈することは無いと思います。(新入生全員です)が特に未経験者の皆さんは山行にたくさん参加しましょう！

もう少し山への理解を効率よく深めたいという方は部の共有フォルダにあるレポートを読むことをおすすめします。フォルダには60年間の山行データやこれらを研究しまとめたレポートがあります。特にFB(各山行計画者が山行中の出来事を時系列に感想とともににつらつら書いたもの)は読み物としても面白く登山というものの想像がつきやすくなると思います。

最後に最も大事な安全性についてです。前述の通り我が部には60年に及ぶ山行データとそれらのレポートがありますので、山でのトラブルに関しての対処に関するノウハウが蓄積・共有されています。また学生が山行を出すということで心配されている方もいるかもしれませんが、山行は計画段階で審議というものにかかれ、安全性などを上級生により検討されます。登山という命の危険性をはらむスポーツを扱うため、安全性に関しては最新の注意を払っています。本格的な登山というものは未経験だからという理由で諦めてしまうのはもったいないものです。私自身未経験で入部しましたが、ここtwでしか経験できないことの連続で、人生が豊かになっている気がします。皆さんと一緒に山に行くことができます。ことを楽しみにしています。



「冬」は、雪山を歩きやスキーで登るという山行形態です。とても寒く荷物も多いので夏より体力を要し、学年で半分弱の希望者のみが行う山行となります。事前の準備が他の山行形態に比べてかなり多く、身につけなければならない知識が膨大にあり、山の中には危険な個所も多々あります。特に森林限界上では吹雪が吹いていることが多く、前が見えにくくなることもあります。しかし、そこで見られる景色は壮大で、写真では表しきれないほど美しいものです。普段は歩いて下山するところをスキーで滑走することもあるので、スキーが好きな人にとってはとても楽しい経験になるでしょう。そうでない人も、冬山でしか経験できないことを数多く経験することができます。

登山靴

登山靴は一般的な運動靴よりもカットが高くなっていて、でこぼこな山道を歩くうえで足首の捻挫を防止することができます。また、山の天気は変わりやすく、突然の雨にも対応できるように高い防水性を誇ります。



テント

TWVの山行では基本的にテント泊です。山の上は強い風が吹くことも多いため、対策として、高さが低く丸みを帯びた形状になっています。



コンパス・マップケース

山では地図とコンパスを見て現在地を把握して進みます。特に藪や冬山では、登山道のない処を進むことも多いため、コンパスと地図は必須のアイテムになります。



コッヘル

サイトでの調理で使用する鍋です。夜のサイトではカレーやシチュー、ポトフや鍋といった汁物とご飯をコッヘルで作って食べます。食後には紅茶を沸かしてみんなで飲んだりします（このことを茶飯と呼ぶ）。

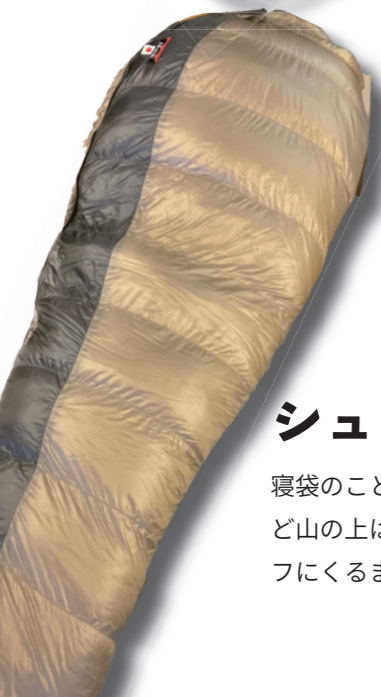


クライミングシューズ

クライミング専用の靴で、指先に力が入るようにつま先付近が曲がっていたり、つま先やかかとを岩の隙間にかけやすいようにシューズ全体が湾曲していたりします。

シュラフ

寝袋のことです。夏といえど山の上は寒いのでシュラフにくるまって寝ます。



ロープ・ハーネス

岩・沢では登攀の際、命綱のロープを結びつけたハーネスを履いて滑落を防ぎます。たりできるので、斜面を滑り落ちずに登っていくことが可能です。

ザック

登山用のザックは、大重量に身体が耐えられるように背中全体で背負うような作りになっていて、腰のバックルをしっかり締めて用います。TWVでは70～90Lくらいの物を使用します。



ブキ・コーゲキ

山行では自分たちで食べるものは自分たちで調理します（サイト）。そのときに使用する食器類を「ブキ（武器）」と呼びます。また、ナイフ・フォーク類については「コーゲキ」と呼びます。由来は諸説あって、「登山時の食事は戦い」や「ロシア語のビューケから」などとまことしやかに囁かれています。

シール

スキー板の裏に貼り付ける滑り止めのようなもので、表面に細かい毛が上てあります。かつてはアザラシ（seal）の毛皮を用いていたためこの名称がつけられました。シールを付けることで、斜面を滑り落ちることなく、スキーを履いたまま山登りができます。



アイゼン・ピッケル

アイゼンは登山靴に装着して使う道具で、爪を凍った斜面に突き刺して歩くことで滑るのを防ぎます。ピッケルはアイゼンとセットで使い、歩く際の支えとします。風の強い稜線上など緊張感のある場面で使用される機会が多いです。



スキーブーツ

一般的なスキーブーツとは違い、山スキー用のスキーブーツにはスキーモードとウォークモードが存在し、ウォークモードでは板を外した状態で普通の登山靴と同じように入ることができます（アイゼンも装着可能）。

スキー板

山スキーで用いるスキー板はゲレンデ用のものよりも軽く、シールという滑り止めを付けたり、ビンディングを開放してかかとを上げたりできるので、斜面を滑り落ちずに登っていくことが可能です。



ゴーグル・サングラス

意外と冬山必需品。晴天の冬山では雪によって日光が照り返されるため、何かしらの対策をしないと、最悪の場合雪盲といって目が炎症を起こす可能性もあります。特にゴーグルは風の強い稜線上や、転倒の危険性が高い山スキーで用います。

ビーコン・スノースコップ プローブ（ゾンデ）

これらはアバランチギアと呼ばれるもので、登山中に雪崩が発生して人が埋没してしまった際の救助に用いられる装備です。ビーコンは埋没者の位置を特定するための装備で、電源を入れると電波を発信し続けます（センドモード）。また、ビーコンをサーチモードに切り替えると、電波を受信できる状態になり、埋没者の位置を特定する手助けになります。埋没者の位置がある程度ビーコンの電波によってわかったら、スノースコップ（略してスノスコ）で周囲を掘ると同時に、プローブ（別名ゾンデ）という棒を雪面に突き刺して埋没者を検索します。普段、プローブは折りたたんだ状態で持ち運びます。



ワカン

登山靴に装着して用い、浮力によって深雪に足が沈み込むのを防ぎます。



さらば東大

東京を出発 20:00

金曜授業後に東京を出発。レンタカーで本郷で装備とメンバーを回収した後駒場に来てもらうことになった。出発後はまっすぐ山梨へ向かった。



おやすみなさい

麓に到着 22:00

道の駅みとみに着いたのは22時過ぎ。日の出は六時なので翌朝は四時半出発と決め、道の駅のピロティと車内とに分かれて寝ることにして雨音のなか各自就寝した。



ワングルの朝は早い

一日目開始 03:00

色っぽいクラリネットの音色で起床。予報通り雨は止んでいて見上げると空が星に満ちていた。ワングル体操を行い出発。長い林道を歩くうちにあたりが白みはじめた。



良い一日のスタート

二日目開始 03:00

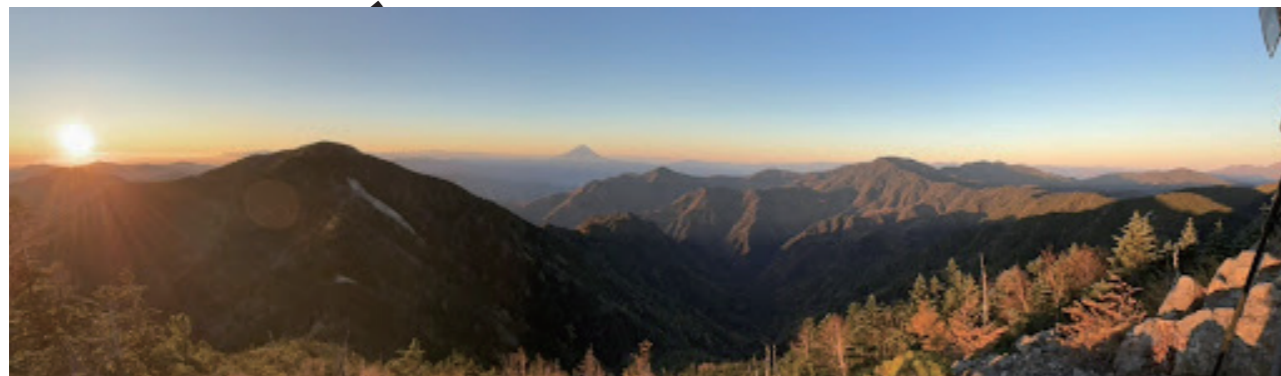
よく寝られたのか寝られていないのかわからないが起床。朝サイの餅茶漬け with cheese を食べ、少量の少ない茶飯を温めなおし大事に飲む。時間通りに撤収し空身で甲武信ヶ岳へ。



気持ちいい!!!

山頂到着! 05:45

山頂近くにはすでに人が沢山いたが、山名標のあたりは東の眺望が無いので閑散としている。百名山四十三座が見えるという触れ込みは伊達ではなく、奥秩父の山々は勿論、太平洋から北アルプスまでが見え、本州の「細さ」が一望に収められる。日の出時間が迫っていたので集合写真を撮り、少し戻った岩場に日の出を見に行く。雲一つ無く左に日の出、右に富士山を望む素晴らしい眺めだった。しかしやはり寒い。



サイト場到着 14:30

峠沢を高巻きしながら数回支流の沢を渡ると徐々に峠沢に降り、沢に沿って進む。九十九折を登りきって雁坂峠に到着した。雁坂峠では、案内板を見ながらここ周辺の気合いの入った過去記録をあげつらったり写真撮影をしたりした。その後は、破風山でたるみ、笹平を通過、木賊山の登り返しを進み、賽の河原の手前でたるんだのち巻道分岐に着く。積雪凍結も無く、本隊はささっと山頂についた。



疲れた～～!

サイト、就寝 20:00

小屋に着き7日に集まってサイトを始める。夕サイはシチュー。サイトが終わると7日はちょっとした宴会を始める。その後、19時半前にお開き。翌朝は甲武信ヶ岳山頂で日の出を見るため日の出の三十分前に出られる様に4時半起き、八時間睡眠が約束された。



寝る子は育つ

下山、温泉、打ち上げ 10:20

小屋に戻り、出発の準備をする。皆昨日の残りで飲みボリは足りる様なのでそのまま出発。霜柱の生えた道をサクサク踏みながら下る。たるみ中に登山客とすれ違う。「高校生ですか？」前日からここまでで何組もの登山客とすれ違って相当の頻度で同じことを訊かれた。不思議だったがなるほど、隊の前にいる一年会が若々しいからなのだな。その後、西沢山荘に到着、下山した。例の如く笛吹の湯で入浴、その後は温泉から予約して「ほうとう さとう」で打ち上げ、メニューが多くとても美味だった。



お疲れ様～

帰宅! 20:00

家もいいね



モデル山行

Q1

山行の頻度はどれくらいですか？

A 基本的には、ほぼ毎週企画される山行のうち、行きたいものを選んで参加する、という仕組みになっています。最低でも月1回、余裕がある人は月2回以上参加することを推奨しています。また、6月に4~5回出される藪トレという企画があり、このうちの2回と、夏休みのはじめにある夏合宿(2週間程度)は原則全員参加です。岩・沢、冬などの登山形態は希望者のみの任意参加です。

Q2

必要なお金はどれくらいですか？

A 夏山装備の場合、全ての装備を揃えると15万円前後かかります。毎回の山行では交通費、食費など、数千~1万円程度かかります。冬山の装備にはさらにお金がかかります。ですが、東大ワングルでは、部員には提携している登山用具店での割引特典があったり、冬山装備を購入する部員には部(OB)から援助が出るなど、少しでも負担が少なくなるように努めています。お金がないけど入部したいという人も気軽に相談してください。

Q3

体力のない人でも、大丈夫ですか...?

A ワングルの新入部員には、毎年、登山初心者が多く、運動が苦手な人も少なくないです。基本的に、月1,2回の頻度で欠かさず山行に参加していれば体力は自然に身についていくので、心配しないでください。入部当初は、装備の分担を減らしたり、バテてしまったら荷物を持つなど、先輩たちが全力でサポートするので安心してください！また、1、2年会は、毎週2回駒場キャンパスおよび代々木公園でトレーニングを行っています。ランニングと筋トレを通して、基礎的な持久力、筋力を身につけるものとなっています。そのほか、山行前には各自の自主トレーニングを義務付けることで体力アップを図っています。ボルダリングジムでクライミングのトレーニングも行われており、希望者が練習しています。

Q4

安全面の対策は大丈夫？

A ワングルでは毎回の山行の前後に、山行に参加しない人も交えて「審議会」という会議を開き、山行の安全性をチェックしています。山行前には、参加者の技量や登山ルート、危険箇所、時間配分、装備などを細かくチェックし、必要があれば計画を変更します。山行後には、山行当日の行動、反省点などを他の部員にフィードバックし、記録を保存して今後の活動のための参考とします。

Q5

安全面の対策は大丈夫？

A ワングルには60年以上の歴史があり、登山に関する知識が代々受け継がれています。合宿や季節の変わり目にはレポートの読み合わせがあり、救急法、山の気象、歩行技術などを学びます。特に新歓期には、新一年会に必要な安全面での知識などを伝達するためのレポートの読み合わせがあります。レポートに加え、山の中でも上級生が丁寧に教えてくれるので未経験者でも安心です。

Q6

万が一、事故が起きてしまった場合の対応は？

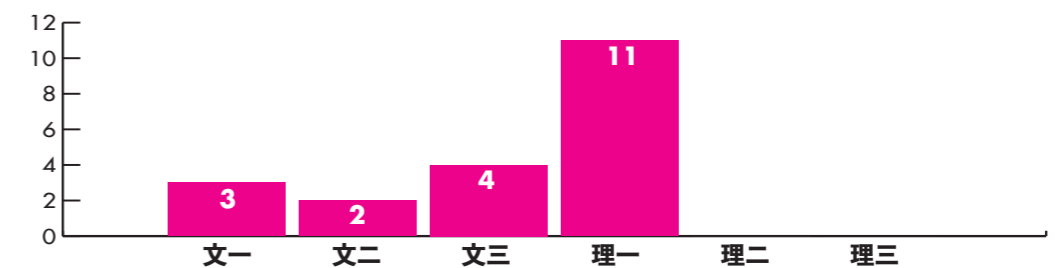
A ワングルはしっかりと遭難対策に取り組んでおり、万一事故が起ってしまった場合のために、部員の一人が遭難対策現地要員として東京で待機しています。警察や自治体などへの登山計画書の提出も行っており、たとえ山に行っているパーティに何か起こったとしても、現地警察と協力し迅速かつ十全な対応ができるようになっています。新歓イベントやメール、SNSを通じて、いつでも質問に答えます。気になることがあったら気軽に質問してください！

学年・性別比

学年会 / 性別	男	女
二年会	7	2
三年会	10	1
四年会	9	0
合計	27	3

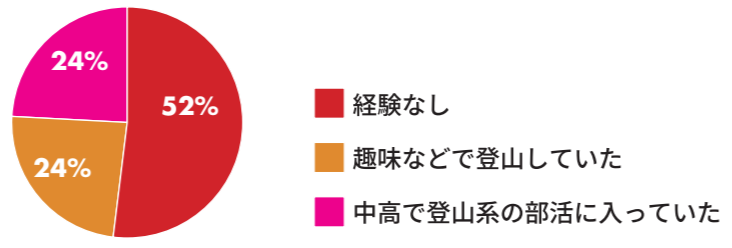
例年十数人の部員が入部し、そのほとんどが積極的に活動に取り組んでおり、稼働人数は東大の他の山岳系団体と比べてもかなり多いです。男女比は、やっぱり圧倒的に男子が多いですね....。でも、女子部員も皆熱心に活動に取り組んでいます。

科類比率 (2年会および3年会)

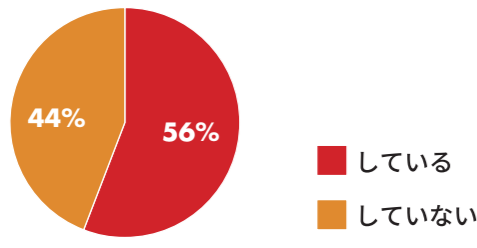


「運動会の部活」というと文系が多いような印象がありますが、ワングルには理系の部員もたくさんいます。2年会は理系5：文系4、3年会は理系6：文系5、とどの学年会も半々です。グラフを見ると、学部総人数が多い理一が突出して多いですね。

1 登山経験

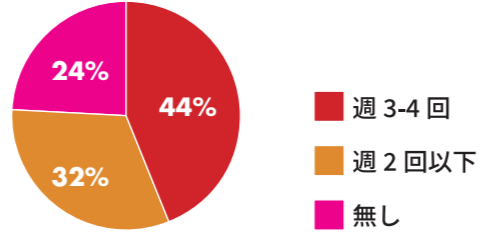


過半数の人が大学から登山を始めた未経験者です。たとえ未経験でも、登山に必要な知識・技術・体力を日々のトレーニングや山行で身につけることができるので、ハイレベルな登山を安全に楽しむことができます。運動に自信のない人や文化部出身者でも、登山に興味がある人なら誰でも大歓迎です！ もちろん、すでに登山の経験がある人にとってもハイレベルな山登りに挑戦できるTWVはおススメです。高校時代に登山系の部活でインターハイなどの大会に出場した先輩も複数人在籍しています。



TWVでは兼サーも自由で、多くの部員が文化系・運動系・勉強会などさまざまなジャンルのサークルでも活動しています。TWVの平日の活動は週2回のトレーニングのみなので、それ以外の時間には他のサークルの活動との両立が可能です。また、冬山登山への参加は任意なので、12月から2月の冬の間は、兼サー先の活動に打ち込む部員も多くいます。

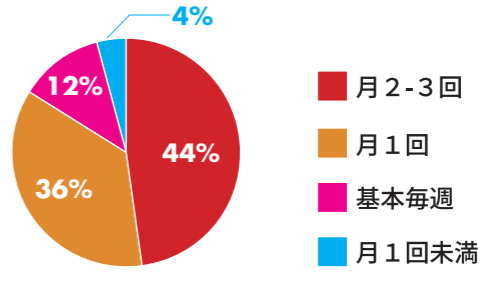
2 兼部・兼サー



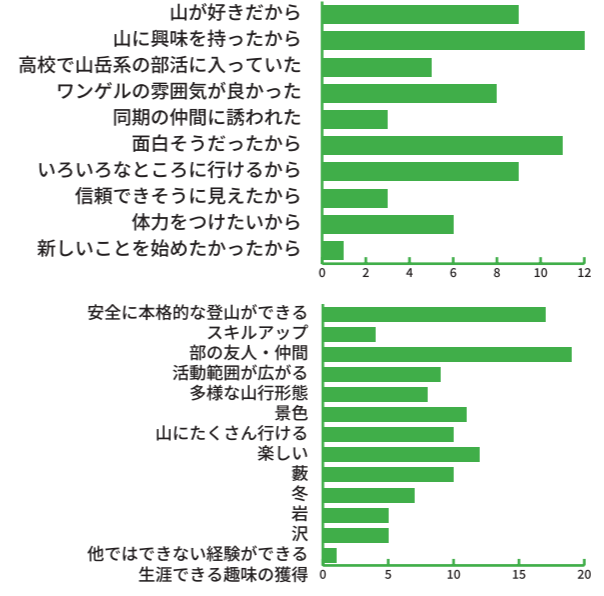
兼サー同様、TWV以外の時間を大学生らしくアルバイトに充てる部員も多くいます。やはり、登山には装備費用や交通費などどうしてもお金がかかってしまうからでしょうか。職種も教育系や飲食店などとさまざまですが、TWVの先輩からの紹介でとあるバイトを始める部員も多いようです。

3 アルバイト

4 参加頻度



TWVではほぼ毎週何かしらの山行が企画されていて、その中から自分の行きたい山行を選んで参加するという形式になっています。参加は基本的には任意なのですが、少なくとも月1回の参加が必須で、2回以上山行に参加する部員も多くいます。中には、基本毎週山に行っている猛者もいます。恐ろしいですね。



安全に本格的な登山ができる ▼
TWV部には、長い歴史の中で蓄積された経験や知識、技術があり、安全管理のための組織機構が整えられているため、初心者からでも安全に本格的な登山を楽しむことができます。独学での習得は難しい登山のスキルを部活の中で安全に学ぶことができます。

部の友人・仲間 ▼
TWVでは出身も性格も多種多様な人が集まっている中で、ともに山を歩き、同じコッヘルを飲み、長い時間を一緒に過ごすことによって、かけがえのない絆を築くことができます。

多様な山行形態 (藪・冬・岩・沢) ▼
TWVには道 (登山道を歩く一般的な山行形態) だけでなく、道なき道を自分の力で切り拓いていく藪、真っ白な銀世界をアイゼンやワカン、時にはスキーを使って進

5 入部理由・利点

んでいく冬山、ロープワークを駆使して岩稜／沢筋を登っていく岩／沢といった山行形態が存在し、部員各々が自分の選んだ山行形態に熱中していて、中にはすべての山行形態で活躍する者もいます。特に、大学の山岳系部活・サークルで藪山行を行っている組織は非常にまれで、TWVの最大の特徴の一つといえるでしょう。

登山に興味があるけど何から始めていいかわからない初心者の方も、すでに山登りの経験があり、よりハイレベルで多種多様な登山に挑戦してみたい経験者の方も、とにかく新しい仲間と何か新しいことを始めてみたいという方も、東京大学運動会ワンダーフォーゲル部に来てみてはいかがですか？地上では味わえない景色・体験があなたを待っています！



いけだ まほ
池田 真帆

教養学部文科三類 ——— 科類・学部学科
岡山白陵高校 ——— 出身校
テニス部 ——— 高校時の部活



参加している
山行形態

おっとり×おちょこちよいの兵庫民。下山が早すぎるワンゲルの華。ほんわかしているようで結構度胸がある。真面目でトレにも熱心だが、山行に靴を忘れた。他にも忘れ物が多いとのコメント多数。しかし本人は至って平気そう。

他己紹介



かわら そう
河原 奏

教養学部文科三類
岡山操山高校
サッカー部



ゲーム好きの気さくな岡山県人。常に挑戦意識を持ち続ける岩・沢メンツ。精神年齢低いが見た目はいい。F(食料)の量には厳しく、ちょっと多く持っていただけで怒る。麻雀の発声が世界一面白い。謎に弟感があるが、家では兄らしい。寝坊を繰り返しバイトをクビになったとか。



こたに あらた
小谷 新太

教養学部理科一類
海城高校
硬式野球部



埼玉のVR中毒者。元野球部で運動神経が高く、藪での行動が速い。プログラミングなどの知識が深く、山行をVRで体験することを試みている。天然で話が通じないことも多々あるが絶対音感を持ち芸術的センスがあるなど多彩。笑顔が可愛い。日焼けするとなお可愛い。



しもかわ さとし
下川 哲史

教養学部文科三類
修猷館高校
山岳部



福岡出身。頼れるインハイ経験者で、冬メンツ。仏頂面に反してとても優しく、表情も豊か。目が細いので寝ているのか否か疑わしいが、寝ているところを見たことがあまりない。身長もあいて、ニット帽を被ると中原中也そのもの。椎名林檎を嗜み、詩集を出す日もそう遠くない。



たかだ だいすけ
高田 大輔

教養学部理科一類
開成高校
天文気象部



自分を東京出身だと考えている川崎民。岩・沢にとってもやる気があるイケメン。まとも側の開成生。クライミングジムによく通っている。カメラ好き。日本を変えたいと思っている熱い男、普段は適当なことを言っている。口癖は「とんでもないな」、「はじまったな」。



たなか しんのすけ
田中 慎之助

教養学部理科一類
修道高校
山岳部



広島出身。冬メンツ。いつも笑顔で天性の愛されキャラ。ニヤニヤしているが、案外ガッツがある。全自動調理器を買っているが、そもそも自炊をしない。某ジブリ映画の影響で豚肉が食べられないというぶっ飛んだ一面を持つ。(豚まんを食べていたとか何とか)



たなか ゆうすけ
田中 佑将

教養学部文科二類
大分上野丘高校
硬式テニス部



大分出身のお調子者。明るくおしゃれかつ人脈が広い。「たなか」が2人いるせいで「にんべん」と呼ばれる。料理上手でワンゲルの所有する小屋では手の込んだ料理を振る舞ってくれる。しきりに無償の愛を乞うが、沢山の友人にも素敵な恋人にも恵まれた贅沢なやつである。



にしむら かおり
西村 佳織

教養学部理科一類
丸亀高校
ワンダーフォーゲル部



香川出身のルーラルガール。インターハイ出場の際メンツ。秋に入部したためまだワンゲル歴は短い。色々なところに気が回るおばあちゃんみたいな優しさを持つ。海外留学など華やかな経歴があるが、最近丸亀うどんがワンコインで買えないことにキレている。



まめだりんたろう
豆田 凜太郎

教養学部理科一類
広島学院高校
山岳部



広島出身。とにかく強い冬メンツ。ゲームとお酒は嫌い。山狂いかと思いきや、案外みんなのことを考えている。日本のモンベルの売上げを彼一人で支えている。ストイックな彼がときより見せるおちゃめな姿にギャップ萌えする。この学年会を先頭で引っ張っていく存在。



いちの ひびき
市野 響希

工学部計数工学科
開成高校
天気象部



ポルダリング・筋トレをこよなく愛する現主将。自慢のスタミナを武器に冬山にも挑む反面、藪は苦手。山へのストイックな姿勢や、仕事をそつなくこなす姿は一部3年会にシンパができるほど尊敬を集めるが、たまに悪い一面を見せるのは開成生の性か。LINEでの先輩に対する敬語は「市野構文」と呼ばれる。



かのう しんいちろう
加納 慎一郎

理学部数学科
海陽中等教育学校
吹奏楽部



駒場数学徒であるとともに、無尽蔵のスタミナと痛みに耐える強靱な精神を併せ持つワンゲルの体力お化け。凄まじい量の差し入れや、山行中のおしゃべりで隊全体を盛り上げるムードメーカーだが、1年時にはクリスマスに徹夜100km個人山行を敢行するなど、所々にクレイジーな一面を見せる。ワンゲルの藪の未来を担う。



かもりょうま
加茂 凌磨

法学部第一類
千葉高校
剣道部



3年会随一のいじられ/愛されキャラ、アイドル。アニメ好きで、昨年の藪合宿では『リコリス・リコイル』を布教していた。寿司職人のような見た目をしている反面、スシローのバイトの面接に落ちたらしく、現在は絵を描いて収入の足しにしているらしい。毎回、写真撮影の時に謎のポーズをしている。



さかいらゆうへい
酒井 陽平

教養学部
聖光学院高校
陸上部



色々あって、今年度前期課程にいる唯一の3年会です。一緒に頑張りましょう。(本人談) 元陸上部でランニングが得意。色々あって年が降りた。いつも笑顔で、山の中でも植物の写真をよく撮っている。ポーっとしているようで、言語や哲学など結構色々なことを考えていて、話し出すととどまるところを知らない。頑張っしてほしい。



たなかもとき
田中 基暉

工学部電子情報学科
麻布高校
物理部 (山も登る)



3年会で唯一下の名前で呼ばれる男。通称、元木。ランニング中毒で、培ったスタミナを山でもいかに発揮するとともに、岩も冬山もマルチにこなす。進振りでは電情に進み、大学とワングル、インターンを両立するハイスペックさを下界でも見せている。面白くて優しい反面、時折冷酷な顔を見せることもあるとか。



ながたたいち
永田 大智

法学部第一類
鈴鹿高校
吹奏楽部



優しくて爽やかな笑顔がトレードマークの三重県人。茶道部にも所属し、クラシックや演歌をよく聞く風流人。いつも落ち着いていて穏やかな性格で、山の中ではとにかくよく写真撮影を行っている。心なしかだんだんカメラマンっぽい風貌になってきたような気がする。最近、根津に引っ越したらしい。



ふるめりょうじろう
古谷 亮次郎

工学部航空宇宙工学科
旭丘高校
ワンダーフォーゲル部



旭丘高校時代からのワングラーであり、山に関する知識は3年会でも随一。米炊きのプロフェッショナルであり、サイトへのこだわりも強い。3年会で一番大人びていて、優しくて頼れる反面、就寝時に寝言で叫ぶ癖?がある。4年会の谷とは高校同期であり、下の名前で呼ぶ間柄。



まつおりんたろう
松尾 凜太郎

理学部情報科学科
麻布高校
パソコン同好会



競技プログラミングの天才である情報強者。国際情報オリンピック金メダリスト、レッドコーダーなど輝かしい実績を残す一方で、熊スプレーを誤射してしまいアメフト部を撃退してしまうなどお茶目な一面を併せ持つ。藪を牽引する存在であり、山行中はいつもヘルメットをかぶっている。下界ではいつも緑のパーカーを着ているらしい。

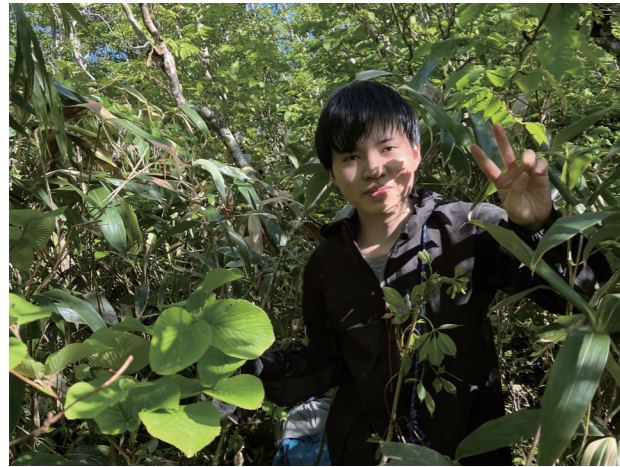


みちしたりな
道下 里菜

教養学部後期課程
桜蔭高校
管弦楽部



後期教養で現代思想を学ぶ3年会の常識人枠? 「あー」であらゆる感情を表現することができて、哲学を学んでいるからか、話してみると考え方が結構面白い。よく道山行に現れるが、昨年のお屋祭からある才能を発揮し始めている。超域文化科学専攻が誇るととても楽しく人である。



やまもと れいじろう
山本 怜次郎

理学部化学科
海城高校
化学部



理ロシ出身の藪の貴公子。もともとロシア語選択だったが、昨年の藪合宿で実はかつてロシアに住んでいたという衝撃のカミングアウトがあった。曰く、銃声がないので、藪はロシアより安全に感じるらしい。真面目で仕事もできる人だが謎も多い。しかし、話してみると意外と面白く、優しさも兼ね備えている。



わたなべ こうへい
渡部 航平

教養学部後期課程
土浦第一高校
テニス部



3年会のまとも枠。100名山制覇の野望を抱いており、道山行の企画力も部内屈指。道下同様超域に所属し、言語の話をよくしてくれる。大学生活が充実していて、ワンゲルの活動以外でもよく山に出かける。カラオケが得意。超域のお仲間同様、ある方面で才能を遺憾なく発揮している。



あさひな りゅうのすけ
朝比奈 龍之介

法学部第二類
札幌南高校
山岳部



北海道出身のスキーマスター。英語もフランス語もできる帰国子女のTLP。ギターもサーフィンもできる才能の塊。しかしながら、味噌汁は具だけ食べて汁は飲めない、ポストンのレッドソックスの帽子をよく被っているのに野球のルールすら知らないなど、時々変な一面を見せる。生活習慣が整いすぎていて逆に怖い。「〜なのさ」が口癖でアニメ好き。



おおたか りょう
大高 峻

法学部第二類
開成高校
テニス部



ランニングやピアノ、ギターが得意な趣味人。坂道が好きでよく聖地巡礼しているが、彼のレベルになると本家より先に聖地巡礼を済ませる。ランニング好きが高じて、今度ハーフマラソンに出るらしい。初めは道ばかり行っていたが、気づいたら藪好きになっていたような。山ではQOLを上げてくれる神。



かとう たくま
加藤 拓真

工学部建築学科
早稲田高校
ソフトテニス部



山でも下界でも常に写真を撮りまくっている建築学科の人。なんだかんだ岩沢冬すべての山行形態をやっているオールマイティ。真面目で律儀、頼りになる一方、突然しょうもないネタをつぶやいてしまう。撮りまくった写真は逐一インスタに上がり、投稿は100件を超える。「もー」が口癖で、サカナクションが好き。



かもだしぎよし
鴨田 薫佳

農学部 生物・環境工学専修
小石川中等教育学校
バトミントン部、物理部



ほぼ毎週山に籠っている生粋のワンゲラー。全山行形態でワンゲルを引っ張るだけでなく、誰に対しても優しく接してくれる人格者。その一方で、下界の俗世間は隔絶しすぎているため、流行りの歌やテレビなどについてまったくの無知である。ただ、最近では”よりもい”こと『宇宙よりも遠い場所』に激ハマりし、異常な愛情を注いでいる。



かわなか こうのすけ
川中 厚之介

理学部物理学科
岡山操山高校
山岳部



アニメや音ゲーの好きな岡山県人。明るくおしゃべりな隊のムードメーカーであると同時に、表裏なくはっきり発言してくれるワンゲルのご意見番でもある。理物所属で、学科が非常に忙しいらしい。不忍池近くでシェアハウスをしている。人生初のスキーでパラレルターンを習得する運動神経には畏敬の念を抱かざるを得ない。



かわべ まなき
川辺 真暉

経済学部経営学科
聖光学院高校
陸上部



ワンゲルのみならず運動会ゴルフ部も兼部する超人。一応経済学部だが週ゼロコマで、3Aは一度も大学へ行かなかった。就活で忙しくしていたものの、心の底から藪を愛しており、夏合宿は3年連続で藪に突っ込んでい。食べ過ぎるとお腹が膨らむ。



たに そうすけ
谷 聡介

工学部都市工学科
旭丘高校
ワンダーフォーゲル部



文系から都市工に理転した頭が切れる猛者。日本の電車と高校に精通していて、美味しいご飯屋さんやカフェもたくさん知っている。地理に詳しく気づいたら日本中どこかを一人旅している。元保険係なので、小難しい手続きを難なくこなしてくれるシゴ德基。ただ藪は忌み嫌っている。



たむら みきた
田村 幹太

理学部生物学科
西大和学園高校
模擬国連



とにかく優しくて後輩の面倒見もいい京都人。金髪で京都弁と属性が多い。駒場祭ではギターやウクレレを弾いたり、たこ焼きを作ったりもしていた。理生所属で実験が忙しいからなのか、昨年度は審議委員長なのに審議中によく居眠りしていた。最近太ってきたことを気にしているらしい。



よしだ いちのすけ
吉田 一之亮

教養学部後期課程
聖光学院高等学校
水泳部



下界への執着が非常に強い国関の人。川崎在住だが福山弁があげつない。高尚な話から低俗な話まで幅広い話題に精通し、エピソードトークが面白い。基本的に下界側の人間で、山の夜には寝付けず、一晩中ドラマを見ていたりする。来年はイギリスに留学するらしい。サク山チョコ次郎。

